

No. 65 2010 年



日彫会報

社団法人
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジョン・ド・諏訪202号室 TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557
<http://www.niccho.com/> email: webmaster@niccho.com

第40回日彫展記念特集号

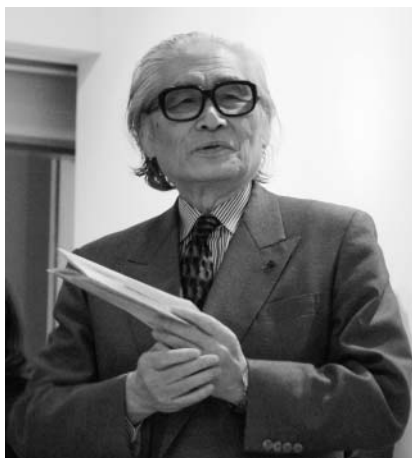


第7回新鋭選抜展（ギャラリー青羅） 会場風景

2010.3.28～4.10

期待の四十回記念展

理事長 蛭 田 二 郎



第7回新鋭選抜展にて

記念という冠をつけた展覧会に、大いに期待しています。

私共の日彫展は、昭和二十四年六月七日から、六月十八日までの二週間に亘る第一回、日本彫刻家連盟展にまで遡ることができます。そこから数えれば、実に六十一年にもなる長い歴史を有しております。そして任意団体としての展覧会から、社団法人という社会的

法制的団体へ移行してから、四十年という歴史を閲しています。

その長い歴史の中で、自ずから会風と言うか、会の共通理念と言うようなものが形成され、共有されてきております。

それは、「具象彫刻の可能性の追及」と言うことであろうと思います。歴史の積み重ねの中で、自ずと醸成されてきた内容であります。このことは、出品者各自の制作を制限するものでも何でもなく、各自の自由を保障しながら、自ずと大勢としての会の理念とも言えるべきものが培われて、共有され続けてきているものであろうと認識しています。

具象彫刻の可能性とは、とてつもなく広く、深いもので、まるで大海のような世界の探求が、私共の仕事でありましょう。制作者の、それぞれの内なる世界への旅の過程で得た収穫物が、作品でありましょう。

それらの貴重な制作物の安定した発表の場を永く確保して、そして社会の中で厳然とし

た存在感をもって彫刻文化に寄与して行くための展覧会ということが使命であります。

「公益社団法人」への移行申請が大切な所以でもあります。その実現へ向けて着実に歩みを進めております。間もなくそれは達成されることを考えております。

社団法人日本彫刻会四十周年記念としてのこの度の展覧会は、当然のことながら、まず第一に作品であります。鑑・審査のあり方から、諸事業の内容も鋭意検討を重ねてきております。展覧会参加者全員の、誇りの持てる、充実した展覧会をめざしていきたいと願っております。

彫刻専門の、団体展としては国内最大の展覧会でありますこの日彫展の、彫刻研究と、その成果の発表という場の充実を心から願って止みません。

第7回新鋭選抜展

「28の熱源から」

三月二十八日（日）から四月十日（土）まで、美術館・ギャラリー青羅において「28の熱源から」と題して「日彫会新鋭選抜展」が開催され、二十八名の会員・会友の意欲的な作品が展示されました。作品のモチーフやテーマ、素材などにも出品作家の個性が表れ、日彫会の今を伝える充実した展覧会となりました。

展覧会初日には、午後一時の開廊より蛭田二郎理事長にご出席頂き、激励のお言葉を頂きました。また、夕方のオープニングパーティーでは、「出品者の皆さんは日彫会会員・会友に支えられて、選抜展に出品できていることを胸に留め、謙虚な気持ちで臨んで欲しいと思います。」と同時に、選抜されたという誇りを持って制作に励み、今後、日彫会を支える人材になることを期待して



会場風景



出品者による作品解説



オープニングパーティ

います。」とのご挨拶を頂きました。次に、市村緑郎委員長の乾杯のご発声のもと力強いオープンとなりました。

続いて、出品者による自己紹介と作品の解説があり、それぞれの思いが、正に二十八の熱源となつて、会場がさらに活気に満ちてきました。「散歩の途中で眺めたアカシアの花の散るさまから作品をイメージした」「炬燵の上のサツマイモからインスピレーションを受けた」という自然派や、「人間のコミュニケーションの原点を作品に託した」「今の時代に何を作るべきなのか、人体を作る意味を考えた」という思考派、「おとぎ話から想を得て制作した」「大好きな空をイメージした」といった空想派など、改めて彫刻の多様性を感じました。

そして「人体の美しさに迫りたい」「人体のフォルムの面白さを塑造に託した」「裸婦像の線、フォルムに着目しながら、内面的な表現をしたい」といった骨太な具象派も健在で、作品の堅固な造形の中に彫刻の本質を語らせていました。

二時間にわたる和やかでありながら熱気を孕んだオープニングパーティーはお開きとなりました。

会期中には、大勢の鑑賞者の方にお越し頂き、暖かいお励ましのお言葉を頂戴しました。また、出品者と鑑賞者の距離が近い展覧会となり、作る側、見る側の双方向の交流が生まれることにより、多角的な視点で彫刻について考える契機にもなつたようです。

出品者氏名

浅香 直子	梶川俊一郎	河口 知佳
坂本 健	丹羽 俊揮	舟生 厚
間島 博徳	伊東 禎子	片山 康之
小瀧 勝平	武本 大志	長谷川倫子
堀 龍太郎	三政 洋一	植田 努
川村 洋平	小西 徳泉	時田 直彦
東 誠	堀内 有子	宮坂 慎司
小関 良太	窪 信一郎	紺谷 武
永江 智尚	一鉄田 徹	前芝 武史
森 矢真人		

第40回彫展 記念企画の御案内

本会は彫刻のみの美術公募団体として、その特性を生かしながら事業展開を推し進めています。彫刻展の開催を通して、我国の美術文化の活性化を図るとともに、鑑賞支援活動を積極的に進めています。特に視覚障がい者の方々への「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」を立ち上げ、彫刻芸術の振興を目的とした社会貢献活動に努めております。第37回展より、上野から六本木の地に会場を移し、お陰をもちまして、本年法人化後、第40回記念展という節目の年を迎えました。

会期中にはいくつかの記念企画を催します。すでにパンフレットを作成しておりますが、この誌面にもお知らせとして掲載いたします。どうぞ詳細をごらん下さい。多くの方々に講演会、研究会にご参加いただき、又、視覚障がい者の方々と共に彫刻に触れて鑑賞していただければ幸いに存じます。

第40回記念展

40th Nicchouten Memorial Exhibition

2010 6・23^{Wed} - 7・5^{Mon}

国立新美術館
会場 3階展示室3A
<http://www.nact.jp/>

平成 22 年 6 月 23 日 [水] - 7 月 5 日 [月]
午前 10 時 - 午後 6 時 [入場: 5 時 30 分まで]
※ 最終日は午後 3 時閉会 [入場: 午後 2 時まで]

休館日: 6 月 29 日 [火]

入場料: 一般 700円 [20名以上1人 400円]
学生 (中・高・大生) 400円 [20名以上1人 300円]
小学生 100円
日曜日 [6月27日・7月4日] 入場無料
身体障がい者手帳をお持ちの方と付添2名まで入場無料
70歳以上の方入場無料

彫

記念講演会 (聴講無料)

「ギリシア美術史と現代彫刻」
美術史家 中山 典夫先生

日 時: 6 月 27 日 [日] 15:00-16:30

会 場: 国立新美術館 3階講堂

彫刻芸術の源流—ギリシア美術
そして現代の具象彫刻へ

聴講者には中山先生も執筆する本会の彫刻芸術研究誌
「アートライブラリーNo.11」を進呈致します。
中山先生とその論考についての詳細は裏面をご覧ください。

展

彫刻研究会

受賞作品を中心とした作品批評・研究会

日 時: 6 月 23 日 [水] 13:00-14:30

会 場: 国立新美術館 3階展示室3A

第40回彫展の受賞者を中心とした、若手作家と審査員による作品批評・研究会です。
どなたでもご参加いただけます。
参加希望の方は会場入口にお集りください。



● 記念講演会

記念講演会では『アトライブラリー』へこれまでに寄稿された論考を踏まえつつ、現代彫刻の明日への展望を語っていただきます。語り手である美術史家の中山典夫先生は、東京教育大学大学院を修了後、西ドイツに渡り、フライブルク大学で博士号（Dr.Phil.）を取得されています。筑波大学の名誉教授であられる中山先生は、現代日本におけるギリシア美術研究の第一人者であります。彫刻芸術が隆盛を誇った古代ギリシア美術を通して、現代における彫刻表現のあり方についてご講演いただきます。

講演当日には、中山先生が執筆されたこれまでの寄稿の続編となる「ギリシア美術史と現代彫刻（4）」を聴講の方々へお配りします。彫刻芸術の深淵に触れる内容となっておりますので、お誘い合わせの上ご参加ください。

● 彫刻研究会

第40回日彫展の受賞者を中心に、若手作家と審査員による作品講評・研究会を行います。どなたでもご参加いただける研究会として、鑑賞者の方々へ、より彫刻芸術に親しんでいただける語りの場とします。

● 触れる彫刻鑑賞プロジェクト

（タッチツアー）

彫刻は触覚にも訴える芸術であり、本会では視覚障がい者の方にも作品に触れて鑑賞していただく「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」を推進してい

ます。会期中会場の係にお申し出くだされば当日の担当作家がご案内します。

また、視覚特別支援学校の課外授業の一環として日彫展会場で鑑賞教室も実施しています。

第40回日彫展では、記念企画としてこれまでの触れる彫刻鑑賞プロジェクトの様子を、写真パネルや資料と共に分かりやすく紹介するコーナーを展示会場の一角に設けることにしました。

● 出品作家が語る鑑賞会

（ギャラリートーク）

出品作家が来場者に向けて鑑賞支援を行います。語り手は審査員が中心となり、作品を前にして会期中毎日鑑賞会を実施します。第40回記念展から、一般の方にも直接作品に触れていただく機会を設け、より充実した彫刻鑑賞の支援を行います。

触れる彫刻鑑賞プロジェクト

第40回日彫展開催
6/23（水）～7/5（月）
国立新美術館 3階展示室3A

日彫展は視覚障がい者の方々の鑑賞活動を応援しています！！

本会は、視覚障がい者の方々と共に、触れて彫刻を楽しむ鑑賞プロジェクトを進めています。40回展を記念して、これまでの活動を会場にパネル展示しています。

触れる彫刻鑑賞プロジェクトとは・・・

「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」は日本彫刻会が国立新美術館と共催する教育普及事業です。会期中、目の不自由な方には、触れての鑑賞支援（タッチツアー）を実施しています。タッチツアー実施時は、来場している方はどなたでも一緒に鑑賞することができます。また視覚特別支援学校は学校単位で鑑賞教室を実施しています。写真は昨年の様子です。裏面でも紹介しています。



出品作家が語る鑑賞会（ギャラリートーク）

実施：初日。最終日を除く14時～15時

作家が、直接作品に触れることも含めて、制作過程のエピソードや彫刻の材料、つくり方など、わかりやすく作品について解説いたします。ご希望の方は、午後2時までに、会場入口にお集まりください。

NEW

第40回日彫展での試みとして、通常のギャラリートークでもご希望があれば、作品に触れてみる事が可能になりました！

主催（社）日本彫刻会 共催 国立新美術館

初めて彫刻展をみる方へ

— 制作の現場から —

日彫展会場でよく「どうやってつくるんですか?」「何でできているんですか?」等、ご質問を受けます。彫刻については、愛好者の方でもまだまだ理解しにくいところが多いようです。今号より、何回かに分けて、—制作の現場から—作家自らができるだけ分かりやすく彫刻について解説を続けてまいります。

① 塑造の制作

まず、自分の掲げたテーマをもとにモデルさんを使ってポーズを決めます。またモデルさんの何気ないしぐさの中から気に入ったポーズを見つけて作ることもあります。

次にいろいろな角度からスケッチし、頭からつま先までの体の流れを描きとめておきます。



回転台



回転台に粘土板をつけ、アングルを設置したもの



芯組したもの



芯組したものに粘土をつけた状態

粘土をつける前に彫刻を作るための道具を紹介します。作品を作るときは、主に水粘土を使います。作家によって色も質も若干の違いがありますが、陶芸用の粘土に比べてこしが強いのが特徴です。小さい作品は油粘土を使うこともあります。等身の作品の場合、水粘土を約200kg使います。90°のポリバケツ二杯ぐらいのかさになります。これだけの重量ですから木と針金だけではとても支えられません。そのためにアングルというものを使います。

アングルは鉄製で、作る大きさによって大小さまざまなサイズがあります。等身の作品ですと、4cm角ぐらいの鉄材で作られたものを使います。アングルは高さを調節することができます。このアングルに胴体部分の心棒を垂木で作り、シユロ縄で縛り付けます。これに針金にシユロ縄を巻いてつくった足・頭・腕の心棒をつけていきます。アングルの横棒の位置が臍の高さになります。

粘土が落ちないように所々小割をつけていきます。この心棒にモデルさんを見ながら、粘土をつける・削るの繰り返しになります。

粘土を心棒にしっかりとつけなければなりませんので叩き板や小割などでおさえながら、大まかな形につけていきます。次にその後へらで形を取っていきます。へらは主に鉄ペラを使いますが、ついでできたものを使ったり、作家によってまちまちです。

また、彫刻は常に360°の方向から見ながら作っていきますので、彫刻を回転させながら粘土をつけて作ります。この200kgの粘土とアングルを合わせた重さに耐えられる回転機が必要です。さらにアトリエは場所によって採光が違いますのでアトリエの中を移動できるように台車に乗せてあります。約300kgの重量に耐えられる台車が必要です。

ここまでの設備投資が最低限必要です。これらの道具があれば、粘土は何回も使えますので、一通りそろえれば、半永久的に制作が可能となります。

粘土のままで運んだり、展示したりすることは不可能です。作品を石膏に置き換える作業が必要です。次回はその石膏取りについて解説致します。

(Y)

東京彫刻散歩Ⅰ

ファッチーニ 「話をする人」

千代田区 日比谷 日生劇場エントランス



H102cm×W166cm×D115cm ブロンズ 1963年（ニッセイ財団所蔵）

日生劇場は1963年、村野藤吾氏の設計により四年の歳月をかけて竣工し、同時に日比谷通り沿いエントランスに、この作品が設置されました。周囲の環境の中で空間を巻き込みゆつたりとした存在感を見せるこの作品は、すでに世界的評価を受けていた、ファッチーニの代表作です。

デフォルメされた表現ですが、人体を研究し様々な写実的描写の積み上げゆえに、腰・胸・関節など端々にリアリズムが潜在しています。

向かい合う男女が身振り手振りでコミュニケーションを図っているような様子は、一見ユーモラスで温かみを感じられます。通り掛りの人たちが誰でも気軽に見ることができます。

ところで、このような表現は抽象・具象どちらなんだろう、という質問をしなくなる方も多いのではないかと思います。結論から言えば具象です。具象・抽象の区別を設けること自体が間違っていると唱える人もいます。

人体を追求し、表現する作家の立場からすれば、表現の違い、デフォルメの度合いの違いと見ればよいのではないのでしょうか。

人体をもとにいわゆる具象の作品を作っている我々もすべからずモデルさんを丸写しすることを目指しているわけではありません。自分の表現したいメッセージをモデルさんのポーズを借りてその主題にあわせて表面のタッチにいたるまで、試行錯誤しながら作り上げていくのです。制作者によって表現意図やイメージが異なり作風が違って見えるだけで、彫刻表現への意志には何の違いもありません。

ファッチーニ (Piericle Fazzini)

1913～1987

イタリアの彫刻家。ウンブリア州グロッタマレに生まれる。家業の家具職人の修行をするうち1929年ローマに移って美術学校で学ぶ。36年に制作した詩人ウンガレッティの肖像によって世に知れ渡ることになる。初期は木材を素材としていたが、後期には青銅を用い、動的な人体と周囲の環境との調和を目指す作風へと移行していった。第二次世界大戦後かつてロダン、ブルデル、マイヨールといった人材をほぼ同時代に輩出したフランス彫刻に代わって、もはやイタリア彫刻の時代だと言わしめた黄金時代を迎え、マリノ・マリニ、ジャコモ・マンズーと並んでその中心をなした。当時イタリアで師事を受けた、日本人留学生も多く、現在日本の彫刻をリードする作家となっている。

東京近辺にはこのように貴重な作品があちこちに見うけられます。このコーナーではそうした作品を紹介してまいります。

(N)
(Y)

〈散歩のご案内〉

日生劇場付近

皇居のお堀近くにあり、周辺には日比谷公園、帝国ホテル等があります。

日生劇場までの行き方

地下鉄

- ・千代田線、日比谷線、都営三田線
日比谷駅A13より徒歩1分
- ・有楽町線
有楽町駅より徒歩10分
- ・丸ノ内線
銀座駅より徒歩10分

JR

- ・山手線、京浜東北線
有楽町駅
日比谷出口より徒歩10分

平成二十一年度 日本彫刻会総会

第八十回通常総会

平成二十二年一月二十九日（金）午後三時十分
於 東京上野公園 日本芸術院会館 講堂

出席者 六十九名

委任状 百九十一名

正会員 三百二十五名 規定により総会成立
議事録署名人の選出

議事

- 第一号議案 平成二十二年事業計画案承認の件
- 第二号議案 平成二十二年予算案承認の件
- 第三号議案 第四十回日彫展開催に関する件
- 第四号議案 会員状況承認の件
- 第五号議案 役員改選の件
- 第六号議案 その他の件

全議案とも異議なく承認されました。

報告事項

第40回日彫展 審査員・会友推挙選考委員の発表、他3件の報告がありました。

慶事

正会員 久保田 俣通 先生
第四十一回日展 内閣総理大臣賞受賞
平成二十一年十一月

第40回記念 日彫展開催要項

■名称 第40回日彫展

■主催 社団法人 日本彫刻会

■会場 国立新美術館 3階展示室
（東京都港区六本木7-22-2）

■会期 平成22年6月23日（水）～7月5日（月）
休館日6月29日（火）

展覧会会期中事務所

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
（国立新美術館内） tel. 03-6812-9935

詳細は日彫会ホームページをご覧ください。

・第40回 東海日彫展

会期 平成22年7月7日（水）～7月11日（日）
会場 愛知芸術文化センター愛知県美術館
（愛知県名古屋市中区東桜1-13-2）

・第40回 北陸日彫展

会期 平成22年7月14日（水）～7月19日（月）
会場 富山県民会館美術館
（富山県富山市新総曲輪4-18）

第四十回日彫展図録 掲載広告募集

現在、図録への広告掲載を広く募っております。会員の皆様のお身近に掲載希望の会社、各種学校等がございましたら、事務所までご連絡下さいますようお願い致します。（係）

計報

左記の方が長逝されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

正会員 田中 初男 先生
平成二十二年一月

役員 雨宮 淳 先生
平成二十二年二月

編集後記

◆40回展を記念して講演会・研究会を開催いたします。ご案内を4、5頁に掲載しました。美術史家中山典夫先生には、ギリシャ美術と現代彫刻について造形の根源的な視点からご講演をいただきます。本会出版の「アート・ライブラリー」にはすでに、この題目での論考をお寄せいただいておりますが、この続編を併せて発行いたします。これについてもご期待ください。

◆今号より、広く一般の方々に、彫刻の制作過程を知っていただくための「初めて彫刻展をみる方へ」と、都内の街角にある彫刻の名作を紹介していく「東京彫刻散歩」の記事を連載してまいります。どうぞご愛読ください。

◆今後とも一般の方々や皆様のご意見ご希望をいただながら読みごたえのある誌面づくりをしてまいります。（Y）

編集委員 小橋 暁子・小宮山美貴・柴田 良貴
野原 昌代・吉岡 徹

日彫会報 No.65 平成二十二年四月二十日発行